

森本好則博士ご退職記念号
刊行に寄せて

森本好則先生は1959年4月に経済学部専任助手に就任の後、63年4月に専任講師に就任され、2003年3月に退職されました。ここに長年にわたる関西学院大学および経済学部に対する先生のご貢献に感謝の意を表する次第です。

ポスト・ケインジアンのマクロ動学と産業連関分析の研究から出発された先生は、オックスフォード大学留学時に産業連関分析の集計問題を研究し、その成果は著名な外国雑誌である *Review of Economic Studies* 等を通じて発表されました。その後、先生は産業連関分析から出発した集計問題研究をマクロ・モデル一般のそれに拡張するとともに、生産関数の分離可能性とヒックス中立的およびハロッド中立的技術進歩との関連の分析を進められました。さらには、動学モデルに関する研究を延長し、経済の諸局面でタイム・ラグの存在によって生じる不均衡の動学的調整過程と準均衡の安定性を伝統的な分析手法を用いて解明するなど、わが国の理論経済学の発展に極めて大きな貢献をなさってこられただけでなく、理事として学会を牽引してこられました。その後も今日に至るまで、近代経済学のミクロ・マクロ分野にわたるさまざまな理論的トピックスについての研究を進めておられます。

教育面では、先生は理論グループの中心メンバーの一人として多くの学生に経済学を教えてこられました。ゼミでは多数の卒業生を送り出されただけでなく、現在、学界で活躍中の研究者を育てられました。また、学部では常に、後輩教員に温かく、時には愛情を持って厳しく接し、教育、研究の両面において助言をお与えになるなど、先生のご恩を受けた教員は私を含め数多くに上っております。

先生はまた、1991年度から92年度まで経済学部長・経済学研究科委員長をお務めになりましたが、その他にも、86年度から88年度にかけては教務部長、94年度から2002年度まで大学評議員をお務めになるなど、学院・大学・学部の行政面においても大きな貢献をなさいました。

このような森本先生の研究、教育、行政の功績を称え、先生には2003年4月に関西学院大学名誉教授の称号が授与されましたが、私達はこのたび、同学の方々による研究成果をまとめた記念号の刊行を計画致しました。そして、この機会に、あらためて先生に感謝するとともに、ますますの御健康をお祈り申し上げます。

2003年6月

関西学院大学経済学部長
林 宜 嗣